**【小学校・中学校・義務教育学校用】**

令和２年度学校評価 結果・学校関係者評価

**達成度（評価）**
**Ａ**：十分達成できている
**Ｂ**：おおむね達成できている
**Ｃ**：やや不十分である
**Ｄ**：不十分である

| 学校名 | 白石町立有明西小学校 |
|---|---|
| 1　前年度<br>評価結果の概要 | **人や地域との交流を通した学びについて，ほぼ目標を達成することができた。また，支援を要する児童へ専門機関と連携しながら，全職員で対応するという意識が高まった。**<br>**学力向上について，特に児童の意欲を高め，だれもがわかる授業づくりを目指して更に具体的な取組が必要である。** |
| 2　学校教育目標 | **笑顔であいさつ　さわやか西小っ子を育てる　チーム有西！　～思いやりと活気，やる気を育てる教育活動の推進～** |
| 3　本年度の重点目標 | **①　思いやりのある児童の育成の目指して，「絆」「思いやり」を意識した集団活動を充実させる。**<br>**②　活気があり進んで取り組む児童の育成を目指して，あいさつレベルアップ，時間を守ること，外遊びを推進する。**<br>**③　やる気をもって学び，互いに高めあう児童の育成を目指して，授業の充実，指導力の向上，家庭学習の推進を図る。** |

**4　重点取組内容・成果指標**　　**中間評価**　　**5　最終評価**

**（1）共通評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 進捗度<br>（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 | ・教職員間でマイプランを共有するとともに，校内研修等により取組の促進を図る。 | B | ・「マイプラン」の内容を意識して指導している教職員は87%である。この時期にマイプランの成果指標を再確認し，学力向上対策の校内研修等で具体的な取組みを考え実践する。 | A | ・共通実践である授業中の振り返りを意識して行っている職員は，87%だった。また，学習習慣や基礎基本の定着に努め，学力向上を意識している職員は，94%だった。今後も授業づくりに振り返りを生かしたり，研修を計画的に行い課題や実践の共通理解を図ったりすることで，学力向上につなげていく。 | B | ・学習状況調査の結果を学校便り等で伝えてもらい概要を知ることができた。<br>・職員間で情報共有を行い，共通した実践が行われている。 | ・学力向上対策コーディネーター |
| | ○児童がわかる，できると思う授業の充実及び家庭学習の推進 | ○「授業がわかるようになった」「振り返りが書けるようになった」と回答する児童85%以上。<br>○「有明西小っ子学びのスタイル」チェック週間や「自学がんばろう週間」の取組に対して，肯定的な回答をする児童85%以上 | ・児童の発達段階や実態に合わせて，少人数やTT等の学習形態を工夫し，指導方法の工夫・改善を行う。<br>・振り返り等の過程において条件やキーワードを基に自分の考えを表現する場を設定する。<br>・「有明西小っ子学びのスタイル」チェック週間や「自学がんばろう週間」を学期に1回設定する。 | B | ・今年度は各学年で少人数指導を多く取り入れ指導方法の工夫・改善を積極的に行っている。<br>・学習の振り返りの時間を取っているという教職員は87%である。振り返りを意識して取り入れているので，今後は学習内容やめあてに添う内容になるように働きかける。<br>・学びのチェック週間への教職員の働きかけは94%。計画的にチェック週間を設定できている。児童の学習に対する姿勢も向上している。 | A | ・学習の振り返りが書けるようになった(91%)，授業が分かるようになった(95%)と肯定的な回答をする児童が増えている。職員も一人一人に応じたきめ細かい指導・支援を行っている(93%)分かる授業のための教材研究や工夫(93%)を行っているという職員が多い。今後も指導方法の工夫を行い授業の充実を継続していく。<br>・「学びのスタイルチェック週間」では，児童の肯定的な回答85%以上を継続することができた。また，「自学がんばろう週間」でもめあてとする学習時間を意識する児 | B | ・今年度は授業を参観する機会がなく，実際に児童の様子を見ることができなかったが，保護者からのクレーム等はなくきめ細かな指導ができている。 | ・学力向上対策コーディネーター |
| ●心の教育 | ●児童生徒が，自他の生命を尊重する心，他者への思いやりや社会性，倫理観や正義感，感動する心など，豊かな心を身に付ける教育活動 | ○集団活動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上<br><br>○人権集会や人権・同和教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上 | ・学校行事，縦割り活動，委員会活動等の中で，「絆」「思いやり」を意識した取組を行う。<br><br>・保護者や地域の方と連携した全校的な「ぽかぽかカード」等の認め合いの場を設定する。 | A | ・学級活動や学習の中で「絆」や「思いやり」を意識して取り組んでいる教職員は100%であった。<br>・ぽかぽかカードの取組みも広がりを見せているが行事等の際に意識して，保護者や地域の方へ働きかける必要がある。<br>・人権集会や人権の花の取組みにより児童の人権意識は高まっている。 | A | ・なかよしファミリータイムやたてわり掃除では協力して活動することが出来たと回答した児童が97%だった。<br>・友達のよいところを見つけて，友達と仲良くすることができていると回答した児童が94%だった。<br>・地域の方との「ぽかぽかカード」のやりとりは今年度は難しかったが，保護者の方は運動会などの行事の後に書いてくださり認め合いの場ができていた。<br>・人権集会後に「人権だより」の発行や人権標語や集会の感想を掲示することで，人権意識を高めることができた。 | B | ・児童アンケートの「自分のよいところがわかる」の項目で自己評価が低いことが気になります。子どもは自分に自信をもつことが，その後の成長に重要な場合が多く，そういう点についても見守り指導していただくように御配慮いただければ幸いです。 | ・集団活動部 |
| | ●いじめの早期発見，早期対応体制の充実 | ○いじめ防止等（いじめの定義，いじめの防止等のための取組，事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員８５%以上<br>○Q-Uテストの学校生活満足群の児童を増やす。 | ・毎週連絡会を行い，気になる児童とその対策について話し合う機会を設け，問題の早期発見に努める。<br>・心のお天気や生活アンケート，Q-Uテスト等を定期的に実施し，児童の様子を把握し，いじめの早期発見・早期対策に努める。情報の共有に努める。<br>・教育相談週間を設定して，児童の理解を深める。 | B | ・毎週の情報共有，各種アンケートによる児童理解は計画的に行っている。<br>・いじめ早期発見，早期対応等組織的対応ができていると回答した教職員は100%であった。<br>・職員研修でQUテストの分析や対策を考え，今後の実践につなげていく。<br>・教育相談週間，各種アンケートの回答を基に児童と個別に話をするようにしている。アンケートの結果を共有し，複数の職員で支援にあたる必要がある。 | A | ・いじめの早期発見，早期対応に組織的に取り組めていると回答した教員は100%であった。<br>・2年生から6年生までの学校生活満足群の割合は，7月調査が47%，11月調査が53%と増加した。<br>・心の天気や生活アンケートでわかった嫌な思いをしている児童に対しては，担任を中心に組織的に対応し，早期解決をすることができた。 | A | ・”感謝の気持ち”を持たせる最高の指導だと痛感した。 | ・教育相談担当<br>・生徒指導部 |
| ●健康・体つくり | ●運動習慣の改善や定着化 | ●外で遊ぶ児童の割合を増やす。目標60%以上。 | ・外遊びへの意欲が高まるような場の設定や呼びかけを行う。<br>・委員会活動や行事等と連携して重点的に取り組む週間を設定する。<br>・遊びや運動に関する道具や環境の整備をする。 | B | ・外遊びが増えるような働きかけをした教職員は80%。<br>・体つくり委員会が昼休みに遊びを紹介するなどの企画を行った。以前より外遊びをするようになった児童も増加傾向にある。<br>・一輪車や竹馬などの遊び道具を使いやすくす | A | ・外に出て遊んだと答えた児童は69%だったので目標を達成できた。<br>・体つくり委員会が昔遊びやなわとび週間など，3回の企画を行い，外で遊ぶ機会をつくることができた。<br>・昔遊びを企画した際に多くの道具を使いやすいように整備することができた。 | B | ・体つくり委員会が外遊びを促す活動を企画し，多くの児童が参加したことで，外遊びの奨励につながった。 | ・保体部 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。<br>・定時退勤日の実施率70%以上を目指す。<br>・全職員で業務内容や働き方について振り返る機会を年2回以上設ける。 | ・定時退勤日を毎週金曜日，第3水曜日と明確に設定し，意識して実践でいるような取組を行う。<br>・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い，課題の早期解決に努める。 | B | ・定時退勤日の実施率70%以上の教職員は60%。毎週金曜日と第3水曜日の意識付けが更に必要である。<br>・学期毎に行事や業務について振り返り，改善について考える場を職員会議で設けている | A | ・「定時退勤日を意識して早く退勤することができた」の質問に，よくあてはまる，あてはまると回答した職員は83%で高い割合であった。<br>・出退勤の時間を毎日パソコン入力で行うことにより，月末ではなく日々の超過勤務時間の累計を把握することができ，各個人でタイムマネジメントを行うことができた。 | B | ・多忙感を感じ，体調を崩す先生はいなかったのでよかった。<br>・児童のために何ができるかを考え取り組まれていることに感謝です。 | ・管理職 |

**（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目**

| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標<br>（数値目標） | | 進捗度<br>（評価） | 進捗状況と見通し | 達成度<br>（評価） | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ◎志を高める教育 | ◎児童が目標をもち，その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動（キャリアパスポートの推進） | ○キャリアパスポートでの「1年の振り返り」で肯定的な回答をした児童85%以上 | ・各種体験活動では，児童に活動の見通しをもたせ，学びの振り返りを行う。<br>・キャリア教育を意識した授業実践を1人1回以上行う。 | C | ・キャリアパスポートを意識して活動の振り返りを行っている教職員は47%。キャリアパスポートのねらいや具体的取組みを再度確認する必要がある。 | B | ・キャリアパスポートを意識して実践を行った職員が64%となり，取り組みへの意識の高まりが見られた。また，児童も，行事や学習の振り返りを行うことで，自分の成長を感じることができている。 | B | ・校外に出ての活動が難しかった1年だったと思います。6年生の作ったマスクをお手紙と一緒にいただきました。大変うれしく思いました。 | ・教務<br>・総合的な学習主任 |
| ○あいさつレベルアップ | ○あいさつのレベルアップ | ○「笑顔であいさつ　さわやか西小っ子」の合い言葉のもと，あいさつがレベルアップしたと回答する児童80%を目指す。 | ・あいさつレベルアップを意識して実践するような取組を委員会活動等と連携して行う。<br>・家庭や地域にも挨拶の励行を呼びかけ，協力を仰ぐ。 | B | ・あいさつのレベルアップについて働きかけをしている教職員は93%であった。<br>・運営委員会や6年生の係活動であいさつレベルアップについての取組があった。<br>・「自分から進んであいさつ」を更に高める働きかけが必要である。 | A | ・「笑顔であいさつさわやか西小っ子」の意識して進んであいさつをしていると答えた児童が88%であった。また，「子どもは進んで挨拶をしている」と答え保護者も79%と高い割合にある。さまざまな取り組みにより，特に朝のあいさつが活発になった。 | A | ・元気のよいあいさつがよく聞こえてきます。<br>・あいさつも元気がよく，また，友達とも仲がよくてすばらしい子ども達だと思います。このままの姿で続けていって欲しいと思います。 | ・生徒指導部 |

**●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育**

| 5　総合評価・<br>次年度への展望 | ・年間通して縦割り活動(縦割りグループ遊び，縦割り掃除)を実施し，異学年との交流および相手を思いやる心の育成につながった。来年度も継続して実施したい。<br>・相手よりも先に元気に気持ちのよいあいさつができる児童が増加した。ノーチャイムで時間を守る，外遊びの推進については児童会活動をいかして取り組ませたい。<br>・授業の充実，指導力の向上を目指して職員研修を実施し，教師一人ひとりの授業改善に取り組むことができた。学校と家庭との連携を充実させる。 |
|---|---|